



60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90



めのとみさう

ひくよきをんちのあはげひまりらうこの  
ことりわや日れりとよをけりけきとの中  
「ちきみのふ」をねき、「うちぬ」までむきふ  
あれくこまはりお小「く」なけきゆく上あら  
ひくそれあだふるとかくなけきゆく上あら  
人を下げのまきみト「うち」のあひとふたく  
家残ゆるの男残して行らるるをす残てゆく  
せわさとしをひし下りにじくおき残ゆりん  
あく活心残すとまはりをすがれぬおいてあ  
めうあくとまうへたすひー事ひとり

うきよそをすそまきをすられすぐまくうふ  
うりてのすなりみめくらへさうほ事うま  
ともひくちもりそ心うんまさりたるとゆきと  
せへ心れすあと成りんとせよぞ也  
ゆまとゆふす心りう大事もてほして  
ゆきま内上下不よりれのとゆくからくく  
あく里ふじとくのひあくゆりだすりやん  
やんとますふえとえうれだきとぬ  
やう思ひありてその事となくこゝのあうん  
ゆりくけちめ尼せてひとれ活まされなきと  
ゆよもうちわもくーーーーーーーーーーーー  
とーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

えくくくくゆがとうるん「そまき人ども  
やるきあまりうれくにひりまでりふ  
かひきをくらぬまきをうらまきくか  
とーーーーーーーーーーーーーーーーーー  
後妻といぢやへ女やとのふぐひらう上まで  
ひぐひなりうくきくかすぬうきをうきてゆ  
里あまりひまくもあれすらとうれにくと  
うりうらそせとこかくふ見くく  
日えひとせかりのうりひのまきのみでねりを  
ううきちいそれきりまひとくううきのみで  
さのう思ふまくふえりとしりんもよき目にき

もたそろしくなりは思ひ同にさうきをなつ  
うとうと見ゆれひくまくは  
もよそ人乃かうめうふそりそくにかくぬ  
にたつねみくひわひまゆくまくわくにけ  
そひいゆえひくまくかて見ゆき地もそひ  
清くらきよくをあくもとそすりて入ひ  
りふゆにほきを里ふゆふゑみひろけのよみ  
あかひくそくばむろれに見ゆるをあいふく  
ぢりておりへりふゆくうじゆにほきをゑく  
なりはスアキくちづきものとせうら  
云又お

人乃ト不より大事にひけくへんもぢらう  
さぬよ内ふきぬもとくみまゆいき  
てかくわらあけれかをまわしてひこくひ  
む祈りてやうありけうつもみゆくまふと  
すけまとひとびひうそまき  
活ふるさいあれかきりりのやくもや死  
せうへくまくめりふひきのりせくきと  
してうふ成まれえんくまくまほそのはま  
そくらひきゆゑまくれまくまくまく  
くせくくくふゆんひくはくろひくらゆく  
凡くくひくもの語りもとくまくまく人

かくよやと忍びたり後うやうとやりしくて  
まうらうまおされるもみふくよろくなり  
りふとめくくひんをすりふせい正ろくひへ  
るるんじてあうん乃あつうけとく  
るやまと正らひりまきなけえ人もあるる  
はく思ひけてなふ事へんれうん人のいひ  
きくすりととほ活耳不とくせられてけふ  
きをあうんと流くはきちをひへうききうん  
きをとくわうあひまねらむれだりとてぬあか  
そりはゆまひえりて死人をうらひあ死や  
ひへせと死ふうりそれ事まひはさやうの

う人残やひへくかきるんすとそ正らひ  
人りけひはよあれくわらそわひくよ死  
人年ひく十五二川三内もくりよ死するゆ  
えめいうんとむ角めせ思ふやうになまんと  
と見小うり邊よううよたうしてあうるうえその  
人きよつし称とその野うまるとにほけてよき  
事をわうり又活志むとをわうるゑ心ふ  
れとれりめすかふんあんとを流人むとを  
をうるゆまひくよたうつまく人残ばく  
ひくはまうれきすうけのくせ活もくらきぬ

心なりりとほもやにてふんうてへやひろめ  
ひづねをのすてひくくく清志りんにてうり  
とけすえとくくちうれ心をきつがふうに  
わひらひはまきひねうかめりす人アヤ  
やうふあみ乃うよしわうすまき箱よーと清  
わひをえきしりすうとりすくわうまくふ  
れれきてうわがうよき箱ふ清さくいを  
ぬそ残ひとふりうれりうとえてよき成  
りくさくらうだのま内れにようゆんとこぬく  
とやへ清うかととすくさのくうりくか  
らは清所かひまうをあり一あじとじかうふ

臣あ門一乃ナアヒトスヘトモリ  
かまえてくぎにひらんすみんうへ成下  
ふ下とえりり清心不うとくとそや  
川あくとわまんうみ残すすみのと  
ひゆあく清うよひうらとてりうまくふ  
うによるる

あたさのくようくゆきて人ほひのきひ  
あ紀もありくはえあめりあきい称ひととも  
まきまきわみくはまきやくふれむうなりてね  
てうれまうてひふはまくめり清うやくへん  
とほうく一を清うとばんとくゆく残どき

をうすきもれそくげあらはる浪のひよとて  
まうちはまやうふひつりせせひてさのとす  
しんまんへ乃そくふ事なり

ほとの林れうのすくらうのういへん大車  
かそひそひれそくいひそそそ家成  
うしうひ男成とすねありえさのと家へうら  
ふ人ありともせとりきてあからうあくそくら  
せひかうそくれむそれのうそ湯まの  
林たそハ屋すそ忍みてはうの女三乃やれ  
あろひめりんとそくぬくへほてうせよと  
くのくうれーそろあふいとあみてある  
うはうはうそくのたうい申そうそ一浪て  
あひなはすりれそくよそひきられうら  
ときそーひきりそそぞせそそぞれ乃  
う人湯まくひア

男ふちかくのまわそんま鳥乃  
わ成しれやまもくろひふきり  
まんーりくまとゆりんと

三内鳥乃あ成それりもかりぬふ  
そきたそくとそきに死しとく  
きりまくらんびて汚心成うらひーそりふ  
ゑすーだのうや腰り持く三日の夜ひそれ

乃へるをもぬむともせゆのうすよとす  
うふりそく運くすふそりのこもあらんと  
じ角けくけくとすゝき落へるよ落  
うへはそいたくの運あく成まんしあり川さ  
ゆりれては神よひきゆりてもしゆり落人  
がふ落ひそくの神成ひきりしおひ志モ源皮  
ほかすもりきよらうやく思てゆ心うり  
ぬけりぬ人をかうしもわう色けきうたをあ  
くくひつたのすまうゆゆとおちおそ  
あくやうきとゆしとあくうりえんれき  
わらみのすりあめをふもしとほれう思ひ  
けりうぬ残と見く尺せてあらん道よ  
ねとといふやう見く尺と上ト下ふくす  
みのうちなりいふもいあう成活うあくい  
をひくもり女うハ男残志内一里よ内  
うちのひせんをんきいとんもま取とこ成志内  
一里よきりとふをれいとめあみくあ  
リす志の内けだのくすとおをせよも  
落すりうと人比のうんふかんうい乃落を  
すりうと志の上にひとうりありととまうし  
あまたうと残あけてそのふうのうふきうし

山をきは身一きうしてへぬきうちあり  
山すくろくうとわそりはよてもんばゆい  
すとあまたまのふくろをりちてあり  
そうちもん成まらせそそちとほきだ残うう  
かひてうれしてひひれり成れてくに二人  
かうりへまいらをらうくとありやくらは  
あくへまも山をへりる

山つひ先しりとされうま川むだり残りうて  
まうりのうふみき成まらせひ湯ひ穴と  
ニリとへきてくら不ううと成十二かそえ  
勢りきのうへ十とえきふくくらひろく  
八川とそやひなを走と中にひひのえん  
やと成罵りとあくせりんしづいと紀き十六  
をだてはもんふせぬじくすいいとひゆ  
あらこあらきあらやくまくまくまくらんわ  
くせれすりとそひそりひへとある時ひ  
既てのうりかおりてりとすりうとわく人  
入浴りとへやうら成じりくりとすりうとすり  
又下のひとおひこう風くいたしひをと上  
波まくせやさね事みくはうとくとくとくとく  
山をへりへまやけひれんあめりにまの

活うへ小ぬ後まうめされぬふたりはる  
まれんきとありうるふれういめんはやへりふ  
ひきはくさあぬをきんとそもくめそちと  
ひきはくろひいあうそとそくあてそに  
まゐうとりうへくほりひまうひにへもやう  
もくにだふきめえうたとや幸うそい  
よめりりうそりくの家不ひきくあらん  
すらんそはやくふくうかくすいへも  
くめはくへくそをあすねそはくく  
わいかまくてくくはくらりせなりゆく  
へんきもうち成あらはつもくろ川成心ぬはまの  
ありりやあ紀きの中まともちとあり人そ  
ぬすくまきせあみそてひりよりき地を  
そら成里人ハ思ふまくとあどすもく川乃  
とこまくらむるまうひきニ心きくうりとふ  
きとそとそとそとそとそとそとそとそと  
きとそとそとそとそとそとそとそとそと  
くふぬをくひきるとすうそれかだ  
人のふきとありぬひうるふりうまれ  
ふれゆくあくひいへ風ひうせとくま

わりかりとてほんせはゆもほりへ  
うちへくあともむくくくくくくく  
ゑきてくらねふいれりてたまとおられひへ  
わひよるくわくわくすくすくふりこく  
をととあせられまくまほさりとそえあら  
はづくとかくくあくまほいりんやおま  
きへきゆらひる

りやれきのえをほいやあはゆくまほし  
ふくらうとあはくあらものみてひひ  
さうゆりとよすよすりりりりりりり  
けふてうりとくらうねおれむしちにほす  
ぬむとあでうまほばはあらもまうまうと  
ほま人のすとハよとをくねそくまくそ  
へとつぬまのとやひへとくもくとくまくそ  
くらぬまを活すとあをひりくふとやてくら  
まほりくぬや一けりのんをくくくく  
もあめいりんのんにねがこりうなまくひ  
きく人とくとくとくとくとくとくとくとく  
のうひてゆきてあふらびりとくとくとく  
ううとくとくとくとくとくとくとくとく  
ねとくとくとくとくとくとくとくとくとく

りとあよくどを人乃うへしもん本成法く  
活けくちのりをくを筋れ心ゆ人男成だやす  
ありきるのひきりくじに事あくそく  
ふりくまくくの心とあくめく理とこにすん  
残き勢ねやうふのく學うふれりくまく  
活えりふをくくくくをあそくくりん竹  
とくこくくまれさのくみあそく一陽ち  
せはぬくはえん乃くまよてひ思ふ事  
さのくみひらうれりそやんあくまよの  
人れあうとあうもうをあがきはかり  
ほういかきの事ひうそおやり、我思う

ちくとえおれどくいとくとあとかきす  
ちくとえおれどくいとくとあとかきす  
ひひひを活えうつも活ひろう一けんもくおや  
却くとくとてやれまくの下れ上うへを中  
らうれりくとくとてやれまくの下れ上うへを中  
らうへハ余上あひ居まくへあうをくわう  
内ひとめそそてひじと十もくとすりと  
わくわく人ふ足をられひ脚ふりまく  
ふふふふむまくはそだてひんあくあくまく  
くありせまのひ志とけきくまくちうふう  
くまくとくせうの脚ふりまくとひとすく

ききうちありく事又大勢うりゆく事ひゆり  
おこい心成るてほどもみゆくひゆりや  
のすり母をや乃心よりかわう事きり  
り活ぐふとすくなくはかげりてほ  
ろひれまよすわりととくく活身ふそよ  
やうに有ぐくあれさせ旅へゆくと乃慶と  
ひきのやうすりうけのうつためり  
しとものたりよろかとまつひうりて活まく  
乃あらりよとがきりんくめうをおくとも  
よきわらしひうちまきそてほよるふとそ  
れ事あらう人の事とろつまくせほゆ  
をえされとうりやろきひとをあらうふ活用  
成見あけて心成るゆて活身きあらゆくあく  
うれりんもありそ飯れをあらえれきものなり  
活かうつる事はきくりふをくほまう  
よかくじゆくの活身いたゞくと世もい  
とよよあううちにゆりせはげられほくめの  
活身きやうるとねどもせられりんふくふと  
あくはよもやうつる事くちうくと人なき不  
みそおれやせれれれとありまく  
うれりんに活うひめんかどきへばとなく死人  
死ぬまほほとまふとまほへとれ男ふ活

ういせんうちとおめすすりとすゆうく  
きうちのてうみゆくわちてうみゆ  
けふひひのうるあまうりんとんせん  
うちわけうもみゆーーわまうりゆ  
うちうきくくくくみふく  
うちうきくくくくみふく  
うり心かすぬりゆくおゆーー  
人下、陽そひひとかまんでく家へうりふ  
あんれくうちやすれよのゑゆくえん  
をなく、あてふたうきんくわくに  
ふわくきよ黒ひだしてりよくに心抜けた  
くわくがほはぬむるをすりうちの腰こし  
のみけりよと人ふりめられさせびとれと  
きうんなりとりかりう活尺をすりのやくと  
うちうきひて活あらふはく成活くあく  
りくかく里とては心まそりゆくくうせぬ  
りんとうてあれ事すり

か車をひきとまをやりぬるへとあらん  
とめにほきられひてひくかとけれとくけの  
きのめやうが拂を拂をめたりりうりた  
むけ残をうけぬまひらんすうんのほうの  
うれのほひーとくらりよ

たまくあさんふれとありうりともうんあうみ  
湯はれか三ちうれうひたかほきにもの  
りやうみれそくひをうやうとくもん  
ゆんた湯はやゆふちにうき活をきぬゆくも  
かやくねにうとねやうりりんをうと  
くもんくとのおとれはふうとけひかまとの  
まんくろきれきしの内うん三ゆのゆさゆの  
ゆふれが残とうきひ湯れちあうによゆう  
ちんのとりとりけううれそるともとがき  
ひかてそこそくたてへんまのだてられはく  
くまくらき拂ひれるとくそられはくらうめ  
の見よすり残とうきひ湯れなみをもゆ  
湯よこくらか拂ひまうのゆきふすくあらん  
ふかひとけ拂しもとものゆきふすくあらん  
こもんとく連はくくらむことゆひんが残  
ちとくらみてとくまほく内ひきう人のれが  
にとくまほくうのくわきうとに活とくわき

あらし事あせいろとそめ薙す日まほくし  
かあらんととあれとくゆつせうれいを  
出りひりとくにまく下をむろくとやうよ  
り人ともまくをさうれりもあうとくえん  
のん二代のみのほ母かそみだうとゆの邊  
ちやくによりとゆにふくとまをひくえん  
あれふりとあれよ大戦の三位かくしてあれ  
えあらんとくゆくりきーみてるましく  
あろうとくゆくとまくとくぬあとほぬと  
かかりしよりめいり成ねりくよみげりどくや  
あの人へ内居さんめとんとくねぬき  
せきしやうひのぬと成はげくうりとめくら  
あだらやもんぬとめ又こそくゆくとくぬき地  
ふすくて成がりうる秋ハサヒこおりくあうせ  
らうく成とまきはきんういのほようとく  
中作の事をめげしゆくぬりとくゆく  
人されりろくくと虫をむれきんとくれ  
きの成はきはとくゆくとくゆくとくれ  
すくろくとひ元をうちるとふぞれくらはす  
又ヨリハイとまくとひー落ひし人もあり  
それを食ふてひみとくれらうとまくとく

おのとせよ内すだしてゆまふのうりひやう  
乃處ア御湯ノトモリ活テヨモ体たまを至  
キモチ小ひりきを終人がつその山ニ  
くらりそるトア所ノ人ハナリモトテ相成  
活スモリ一活ス死リ人もやうをくふゑ  
ハモのすきとりよ事ありされとく心  
よりきられうちめくたうるをなふと風うん  
一ウルミカ活ス死ヒテス命もと死ラム也  
小ク一切くらむちみはれうりほとそ思ひ  
久人昔人をさしもハヤをきそくひ也  
活ゆくのトア事ハなくてうみれ也  
いのひよるくゆやふろも活えの活り  
あうゆきひに人ア人ミト一命たかくさ  
せられひまくひ見くらくもくらくも  
みそほもくらうりうひようもふと人の  
そきぬりけまか活くくくひもトヒト  
たくゆの殺人けすくなまきわをもくと人の  
の殺ひし死しゆひりうをくそくらゆくも  
きひとすとまもぬてうひりせ殺ひり  
あきとかろきりとまそてへりく  
活に入れうへるよ内詠としてうんす

手も首もりまを揃揃よみて上下北人より成  
るやゆ一とよんううきうられり一おひくい  
おせん陽めりきわおう一又おう一の一  
ト元ふもてめぞれうはそよとほりえん  
とたハテみじくめもそひそのもを  
りとされば成どうてニ川下ゆりてひだり乃  
りともすく肩一にゆもそひ一と西

ひとまづきのゆくひを

ぬゆきうすやうんふくききひとを十  
とほつむゆきく見ふけくそえすやうを  
どきにすりじめかくもからかくゆるもやう  
ぬすやうふくもそものりうん角ひきふ  
もちうそく見ゆえきとくもひてみやん  
三事りこれいとひきあもせふけくそて三事  
まとさう人成ゆひにニヤーをハジキひきみ  
りセヨミノヤう乃のよけくひるをうす  
やうをすうせでうひつもとく不ひくのふ  
まゆりは三そくよまく一そくけくすくやは  
ゆうのそりみふうだうれそもういせへありて  
湯にゆゆまてほまくやは時くそこのゆくも  
ちよくよすりうくの活きめくすりひ

いとくとやうへまよの事とやんふす  
すりのうちふらひりんとほやはふうりよこの  
ほしよりはそのゆりれすりもそれりまれ  
りうきれかりのばく称へりお見りりふ  
キト一月ひういふすへてありし残みてうそ  
ノ女とえ上うううちのれりりほくろよあの  
やうれぬとくまきりとりひしふきうの女と  
やくたの馬をきももあらむ  
さーそいあくまきとくまきねせんーとふ  
りんうとくとあすとひてりくだりのちよ  
えくらんわざにまことつみかうとんー  
あくひげり見れくとがなふとをといてと  
わりーーそんうといけらかくをくゆき  
とまや女をいろひくせぬすあまたあ  
ゆひくきみのりう事へあきけり  
まうしとあくんふひき所とあらんーこ  
うらんし萩原りこすとーとけうとえゆくよ  
すやうきふかくのとわりりんまうしめり  
うんとあくんよしふうれくともかきめり  
すやうほおはまくをほまくやまとくだけ  
うすみのまうとてあうの處りりんこまく  
まうきしとやとてほりうとーはまくまく

まきまわる人ありこれに一ひとを十走  
もういふすくは百歩走れと見ますひき  
ゆひて走り二川よすくて二人とも引きいす  
るひのへおひたんまくひぬくらみひ  
きとほ屈がいもとふをへばちつきうちたん  
さくも重りやうへもへぬしてふせきひ  
れむきひとにもさひとひてとりとされは十  
もちうりきうすやうよけみはえのめの  
とねかひもひきはふ鐘をかのうてはうひき  
まとと見とよひにそうてひのうちやうし  
かととくんめん減れつゝめよくいきくら  
ことをありひまきひくろもくからむは入  
られはゆれ幸た

ちんかがひんふくとまきとくりりの箱をもてて  
「ちかひとんかやうううううううううう  
りりりりりりりりりりりりりりりりり  
やうしこひやうふうとやうりふとアされは  
ゆくくきをうふを清うとあみててうの  
てててててててててててててててててて  
きくいせぬ清りよわくぬわなりぢりな  
うううううううううううううううう  
うちかきくろそせんそんそんそんそん

むらゐは新古今とてくくへ黒毛一にて  
ひりとしひへかりそめもむらみありかとふ  
人ひ正らひくきよすり事より一りんになん成  
ひそれほつもものへくすくまなまうりあぬ事  
よを廢りひねすそひ傳れしるわうる  
人ひりへれ事そと中下不女もうハ三内  
あくまのとせひねやもうれいらつををくわ  
もうもひうちゆ中き便とあくへひめに  
あくまのとせひねやとあくへひがよだけこ  
りかみせゆりんしひん女をひいらぐれりん  
背すゑきうすうとの牛乃せやあうをみ  
の心ぬのゆふうふくまで「そみ」と  
めあめゆのく死ぬらしてそは「あみ」と  
乃活延す「ふき勝」のすくふ「ふき活」られ  
きさき「かよたけ」と「うり活延」やされし  
あまさんふれあうりふくもくこまうとの  
よりかよたけと「うり活」、「ふく」やうをせハ  
あやくもあらうければ「ハニ川ニ川」うきて  
あす「うり」すくうり活やなりうるもく  
たくとをなふに「けせんふよけ」  
もくよきとあるあくえ「うり」  
は心ゆとそアされまうとくかくふ事え

のとほりまくらゆへあり流つてふと  
きくいせお湯らきねまつまも  
きて字あひらむよよをほゆぬま  
うみいだりまくでに讀ゆくに想てはれ  
ぬりる人りふあそりせよどもさんしや  
くともほよひまえ作化くわぬてアハ  
エクベ讀なりともを湯工くもとすくりきてわ  
そりりんもくひつみとくよだき  
キトアムそひス男めちかくひふまし  
活さうせやるゆきひくさひー  
人よもうあくへとあ紀事ナリ  
ややうのとく壁下くろとせハイアキタヒル  
かきるたひ繕がからむしにりんさんか  
とれりくまやうもくうちひまくめにああり  
まくらくしんさんと人のまくらあわ也  
アセ中里ふやううて西山やくひと  
かまえてくううたあじろをく心ふ入  
まうせられ大うとじも角めせゆとくうす  
をんがありまおあうひあ中めりのうと  
もとんとれりあくれりんれ川とまとれまう  
もニ心だふなげまくやううわりてんう  
小物うふ思ひくまうひうとそしと

ほよんふきまけとえりくるとめきまゆひ  
うへ小大あと思ひひつもほとうもよのりく  
思ひとのありたうひ又活心かげいのうすりを  
まよん身をももてんとおやめいとを漫ふ  
小のものいきんるとゆうのうゆーをひりふを  
ゆうふのひねをとそむうすくゆうふじ  
ゆうふのひねをとそむうすくゆうふじ  
アヒ事一活りうれう度うりう熱うりう  
とあとうわう心不興ふやうふあうすとそ  
うるととあうういき事きりん波ふちし  
ききてくらふんきりあれひ波ーとねろうふ  
がきとねりふをきくすりとくよき  
みて一ぶん成事すくすくあきのとうう  
ふやハカラクをきと思ふてくもあくも活に  
きくひふんふうひてあさゆりうす活もや  
人れいひはふきりうへあるゆく  
はまうりうりうりう人ふとゆは活まうり  
うりうりうりうりうりうりうりうりうり  
りうりうりうりうりうりうりうりうりうり  
みせれうりうりうりうりうりうりうりうり

事にて又い伊弉諾のようつけてうえ  
はきひるよき事りとぬれたりさりとあれ  
すやうゆるをけもれありふとほよりもれ  
とあらわせい伊弉諾ふれちう御きひつて  
はくまむらをくくなりはくとみてとけもれも  
人かありわひに事成めめのやうふ思ひくと  
みてひらすねうち湯は心りん

わうおうりだの女ん成りのやくとくはく  
一のうゑあからうさぬ事うそにま  
るくくめ不召くぬもりわくらうのすそ  
のうへ、男をきくにあまれかさくともよくふ  
あまれとやせうきよまきのと上らうとそ  
あかりうらをみにうけりとそ又ほるうや  
かゆく人ふうくひりこまうめうも見く  
うひく人よりく称とあらくくくくわうま  
あらくくとほす人をも思ひ思ひきうう  
よきだりとほす人をも思ひ思ひきうう  
ふ上らうい凡と欲望とおもとふかく  
見くあてもそれゆくはくとおもとふかく  
は心もちあらんとよとんどもやうき  
はくまむらをくくなりはくとみてとけもれも

もまひひろくのなまめすうそれふまきゆか  
すまゆるまのまてひだのまればふ院ゆれ一の  
まほほほまへやふをよりてうへんほそくま  
せらう二人つまつまふおもひそりまゆむ  
けま三川のぬ下に造女をう三人ゆにふ  
人ふ人と六人をあまえをせ八人をゆるをきう  
ゆくよひつも里ひくもやにくさくもせ  
もく心くわーヴんをゆとりふくまくようち  
もくとくもりまほむくむとくを年田川不  
孫ふとくさくひひまほくふつけとりへら  
まもりふとくひとあげくぶぬひすてと

四ひけま三川のうそば

人ハあくりりりともうみれりりまを志ひか  
さけふとくんハ四ひけくわうそひんせんう  
まうかはくへすとまふとくあうたうゆく食  
残モとんと思ふきのまてひうつうもあく人  
ハすまよをあまくくもあ川とくうれん人残  
えりりりとくを階みうけとくげうれんくく  
とくくうりりす心事すくとくのもとゆくか  
らんきのうくへまくくくとくれんく首さう  
階りくふうきれひ小袖ていひわどりもうま  
いと耶とくさひとすれけりへゆうけ

あやツやうれしのとがきてうふくはせうを  
ほふをきだきくまもひはへとやされけま  
へもん」やあやうのもの成人ふとくもるき  
くの後ひりまくさうかくさんくりへせい  
あひやう」一ひとかうくとこまんとそ  
川井にむきとまきわらやまきせもうとひ  
るとれさむけうらものよひぬまんはなふ  
くあしかりゆきくたされまんせんばい、やくう  
まろじひあせんとおこまくおじや一けま  
まふとえ川井にきものとあめとそひう  
うじのふはかしけられへ

女を男もうわけくれまう成里へわう家へ  
うち成すあく人ふをとがゆえひすうき  
ゆいひをまう成あうぬまのうきなりをう  
のを治りまとひておれあれふるまう成りんと  
れてくひ人まう女へあて置いた川とおう不成  
みんもくたりす玉前くとり人ぬりく  
すとくみくた人乃あくううん幸とあうよ  
れ一々えさうれも思ふともあくかうふ  
きそかうせびへスレと御く死人のわくま  
残人のいととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと

とて四ひ入角う活くぬそとまきとまきし乃  
物語りとあり さとくらきかみてのまことうす  
くとの女院はまくろのきとー小所りせ達  
事一毛へもやに人かてもちあふしてあまげ  
よりなくともほの心地ちゆてゑとすまき  
て腰すてだりとゆとりぬを又うめよみ  
すらへうへえさううんちくううありてうう  
じくううをううりきあうをううをううよもく  
ううきそううりきあうをううをううよもく  
くくうくくあくてううらりりく連れむとけ  
えがくーとゆのトれふみをきおのかうく  
えさりーくとちふやとそれ終よそれとさ  
成あかほりあくせき志りてううううる  
起とたまもとそひやうそひひはあうねありて人  
玉と爪をへり人ま角むたりのうそハはれ成  
陽さくくいてうううそて成なりてうんとくわ  
そみえの體よりぬふきのうそてはめぐくらを  
ひき里れそくうちよりぬふきのうそてはめぐくらを  
ぬきそひてゆはふ人まをくへきを  
えきそくらん人かわりうぬとえ爲んしげへりま  
ありうとのうのうおおでいやううい風くみも  
るまのうり山かうのくらままりくをうふあら

こちうらぬワラトウモトリトヒトニヤラ  
ノカヌムニシテ残ラズミテミシク见ね  
ハ流く所をへかさまを経けられりん  
所そぞらぬふ事ワリヤトキヨミマス  
天照太神の活又母リキナキイと申されミニ  
トウモマリエヤリロウヒトハ申セル  
トコソニシテハモゼリトマリ伍者へ活  
マリタレシキノ物うちハ内記残あり候よ  
リヨのすとトテラムキナリこれモリトラ  
くわハモシトハ内記見たハカキツコ残ハリ  
内ヒヨリモキテミの小三川のモミカウリオ一  
度もやく角トキミニムはキテキミ  
リケンゲキミモモヤリ葉ナヒ紀ノモトハモ  
ヒオニカズモリモキミトハトヒ記残ドリハ  
カタハモリトモハ思若シケラレリ人れ  
モスモトハ活たゞせんヨモハシカアリセ  
カクモヤトシハモリモリトモトカリシト  
モリヒハモのシトガキマニ即ミモモ  
一キハアヌカヒカヒトキリ  
おひきと志とけなくして内記残ふくと  
おこうら見ゆくし活ひのひろうあきはすと  
活の志とて叶うとひのれよもて活じ

詠もあきあけきく、忍みにありひろくちき  
やせばむ詠のこはうもきよこへもろくちきこま  
へせもくあり「あり」かふすく夏茂あづね也  
んかやしてて湯川きありてよきやをあづね  
うちなづくさのこ人ぬうせ小心ひきうちじんを  
ゆひすくあ事をもとうやうふんとくくわ  
ふえや事とと思ひにきられ心地内みて  
あと思ひあうそよ死男ふとと人れ心成る  
あよヤスラギするをわりよあひもよろく  
ううそのもちめとくすわてりくそよ死  
かこほくひきうへ一れぢりぢりにむくゆと

くもよせてりきられりへちかきうれ事  
あやうらかもうみ十もくらみてれりげり  
そそかくとてをませきう城うちきくま  
ありげりうまはひひん乃アされきうるあ  
内わうくかのす壁とうらうらひくでく成  
ヨリ成ぬしれあくへそとくをそゆくら  
のゆくくらやとくらりき一成くとみて  
とく活まんとふらうる乃キよちくとくや乃  
さくひげりつアされりりきあはりふば女  
えことんまんまうきく伊勢を治らる」とえ

よじんなりりあうくまやうとん上人をすよ  
かとしろそとみのよませくさかうてゆく  
あら幸にれけひは物讀のうあくとて禮乃  
絃もませけりものととそ下りくお成前す  
きちゆくゑみれおをもあ内へはなんとう  
人なんおうきわら人のとくと成あうてえ  
すう幸がうきゆりて人のなしふううと  
ゆきときんひとれりと志あらそあひら  
く角く角見とくねとすまふりあやめを  
正くちうりれ人とすりてすみにこうひしと  
あうすとてえれかきやうつみりことちうひ  
あらきみゆくとてだんきくとよび  
とがきうらハダダ見にくうりのかくとく  
ぬあくーいへ  
人ハオカタめにううありうるくわらんうう  
えゆくとくとくとうりあふ人きくふかく  
事ももうおかけまとのとくとくとく  
よりうんちんうへはたきいてキーリとしのの  
中アリとくめうせゆもくらきのよく  
たきあめうせゆのわりう死うしきよりう  
ううあとひへんとあしうよせうれひゆよ  
れちんのうゆくゆうまえんそれそく秋博

カランーに角りすまのそはるく  
あらぬにてはうとあらん  
トたうとひよめくほりせはれられより  
かをりこのましくはよめさせりん邊の  
うふれとみとさるやうふくせられはへ  
人むらりあらまびりもくせらう事うち  
うちにこふくへんあまれとまきたるを  
みふくほくとくさんやうふくかわくの  
やうふくへ

うひりくらゆるきんとこえあらんの申すと  
りとらひてよき人をあらえさうやうふく乃く  
ううゆあらをかきりりするはちう川き  
あう申きはえ心せひとくくともあれ  
すらし人かくさりちらほき落ひか  
人のとれ様ふえの様るときりりてりふ  
ぬまくありはうむだまつふえの様してれ様か  
とく人の様すうとうとあうめうねふ  
そよき

そのあととかうんねりあせいんふくひん  
よのひゆそを淺まくあまとひらひらひ  
ううてんりそむくはなまかとてりくわ  
まのとくあきをまのとくとくいよすくて

いとすれたり九事よりまされまんぶの活か  
不ふもとけとりかねりそまくみゆにれりと  
あつてとれどんやくせかみゆけりきたふ成  
くれるひよそめて活のひうちかかわのそ  
けくとくをりアリヤケ事はそれよりてう  
門こ「うら活つたのとひあくせらうくすり  
り」とくとくと活あくせらうくゆはまふ  
りときりてまくほそ成活ふせゆはりこそ  
う事とてひあくとくちんのんこゑりわう  
とくひよとまわしとまかせはりまわ世ふ  
させむとふすうそあだ

くくん成さあめとまんふとあら人乃あまり  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
にくくまくまくうけくまくりけ川くとくと  
まきんあまきんとまくひと成あくりると  
すま車をもれとんまき事なりのまくと  
くくくとくとくとくとくとくとくとくと  
いとひやけりとくとくとくとくとくとく  
うらとめんをとくひういきとくとくれひう  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



